**前回ワーキンググループにおける委員意見**

**別紙**

**論点1：施設入所者へのアプローチ**

・各入所施設にはさまざまな市町村の障がい者が入所している。それぞれの市町村が個別にアプローチするとなると入所施設側も対応が大変なので、複数の市町村が一度に入所施設を訪問することができるよう、大阪府が訪問日の日程調整をしてはどうか。

・長期入所者にとっては入所施設の外に出ることすら億劫であったり怖かったりする。地域移行の動機づけの意味で外出体験が重要ではないか。

・何十年も入所している長期入所者の場合、地元の市町村より入所施設の周辺地域の方が身近であったり、入所施設に愛着を持っている場合がある。地域移行を進めるにあたっては、本人が地域と感じる場所での暮らしを支援する視点が大事ではないか。

・入所者の多くは難しい課題を抱えており、グループホームの体験プログラムを行うものの、地域移行につながりにくい状況がある。

・これまで地域移行に取り組んできた中、現在、入所している人のほとんどが入所施設を終の棲家と考えており、地域移行の希望が出てこない状況があるのではないか。

・地域生活をイメージできるようなしくみを検討できないか。

・意思決定支援の取り組みについての視点も必要ではないか。

**論点2：重度化・高齢化に対応した受け皿について**

・高齢の障がい者を支援するにあたって、入所施設にはハード面、ソフト面の課題がある。入所施設は介護保険の適用除外施設になっているため、高齢施設へのスムーズな移行が困難であるが、入所者の快適な生活や安全な生活を考えた時に高齢施設も選択できるようにしておくことはできないか。

・入所者の多くは難しい課題を抱えており、グループホームの体験プログラムを行うものの、地域移行につながりにくい状況がある。（再掲）

**論点3：地域移行支援サービスについて**

・一般相談支援事業所が地域移行支援に取り組む際、入所施設や精神科病院への移動にかかる交通費の負担が大きい。事業所の負担を軽減する取り組みが必要ではないか。

・一般相談支援事業所の多くは地域移行支援の経験がない。地域移行支援者を養成するにあたっては、座学だけでなく実地研修も必要ではないか。また、座学でも取り組みの実例などを交えながら、地域移行の支援内容や趣旨が伝わるものにしてほしい。